

HP Project and Portfolio Management Center

ソフトウェアバージョン: 9.30

Windows®オペレーティングシステム

リリースノート

ドキュメントリリース日: 2014年9月

ソフトウェアリリース日: 2014年9月



ご注意

保証

HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載は、追加保証を提供するものではありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピューターソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HPからの有効な使用許諾が必要です。商用コンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR 12.211および12.212の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1997 - 2014 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe®は、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の登録商標です。

Microsoft®およびWindows®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

UNIX®は、The Open Groupの登録商標です。

ドキュメントの更新情報

このマニュアルの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアバージョンの番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメントリリース日は、ドキュメントが更新されるたびに更新されます。
- ソフトウェアリリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

更新状況、およびご使用のドキュメントが最新版かどうかは、次のサイトで確認できます。<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

次の表に、最後にリリースされたエディション以来、このドキュメントに加えられた変更点を示します。

サポート

HPソフトウェアサポートオンラインWebサイトを参照してください。<http://www.hp.com/go/hpsupport>

このサイトでは、HPのお客様窓口のほか、HPソフトウェアが提供する製品、サービス、およびサポートに関する詳細情報をご覧ください。

HPソフトウェアオンラインではセルフソルブ機能を提供しています。お客様のビジネスを管理するのに必要な対話型の技術サポートツールに、素早く効率的にアクセスできます。HPソフトウェアサポートのWebサイトでは、次のようなことができます。

- 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- サポートケースの登録とエンハンスメント要求のトラッキング
- ソフトウェアパッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HPサポート窓口の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の閲覧
- 他のソフトウェアカスタマーとの意見交換
- ソフトウェアトレーニングの検索と登録

一部のサポートを除き、サポートのご利用には、HP Passportユーザーとしてご登録の上、サインインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport IDを登録するには、次のWebサイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

アクセスレベルの詳細については、次のWebサイトをご覧ください。

http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP Software Solutions Nowは、HPSWのソリューションと統合に関するポータルWebサイトです。このサイトでは、お客様のビジネスニーズを満たすHP製品ソリューションを検索したり、HP製品間の統合に関する詳細なリストやTILプロセスのリストを閲覧することができます。このサイトのURLは<http://h20230.www2.hp.com/sc/solutions/index.jsp>です。

目次

バージョン9.30の概要	5
本リリースのスコープ	5
PPM Centerバージョン9.30のドキュメント	5
インストールに関する注意事項	6
HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびHP GL Migratorへの アップグレードによるOracle E-Business Suite Release 12のサポート	7
拡張Jarで提供される新しいオブジェクトタイプ	7
PPM Centerバージョン9.3xでの製品 インストールシーケンス	8
ソフトウェアとハードウェアの要件	9
既知の問題と制限事項	9
アクセラレータ - ベストプラクティス	9
ダッシュボード	10
HP Demand Management	10
HP Deployment Management	17
HP Portfolio Management	18
HP Program Management	18
HP Project Management	19
統合	20
インストール	22
iPad認定	22
複数言語ユーザインタフェース (MLU)	24
プラットフォーム	26
プラットフォーム - UI	27
Workbench	28
HP Resource Management	29
HP Time Management	29
PPM Workbench	31
アップグレード	32
ドキュメントの正誤表	32
ドキュメントのフィードバックを送信	36

バージョン9.30の概要

本書では、Project and Portfolio Management Center (PPM Center) バージョン9.30で行われた変更点を説明します。マニュアルには記載されていない重要な内容についても掲載します。バージョン9.30で追加された機能拡張と修正については、「[既知の問題と制限事項](#)」(9ページ)を参照してください。

本リリースのスコープ

PPM Centerバージョン9.30では、アップグレードと機能など多くの領域で改善が行われています。

本リリースの機能拡張の詳細については、『[新機能と変更点](#)』を参照してください。PPM Centerのドキュメントを参照する方法は、「[PPM Centerバージョン9.30のドキュメント](#)」(5ページ)を参照してください。

注意: バージョン9.21および9.22の不具合修正と、9.22のパッチ (9.22.0003まで) は、バージョン9.30に統合されています。PPM Centerパッチ9.22.0004 (以降) を使用している場合は、PPM Centerバージョン9.30にアップグレードしないでください。アップグレードすると、9.22.0004に含まれる不具合修正が無効になることがあります。バージョン9.30を対象に、この不具合を修正したパッチがリリースされるまでお待ちください。

PPM Centerバージョン9.30のドキュメント

PPM Centerバージョン9.30のドキュメントはすべて製品に同梱されています。また、次のHPソフトウェア製品マニュアルWebサイトに掲載されています。

(<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>)

ドキュメントはすべてAdobe Acrobat (.pdf) 形式で提供されます。また、ほとんどのドキュメントはオンラインヘルプで参照できます。

PPM Centerのドキュメントは、PPM Centerヘルプセンターページ ([[Help](#)] > [[Help Center](#)]) に掲載されている各トピックへのリンクからもアクセスできます。

次に示すドキュメントには変更に関する最新情報が記載されるため、PPM Centerのインストール時には提供されません。

- PPM Center 9.30のリリースノート
- PPM Center 9.30の言語パックのリリースノート

- System Requirements and Compatibility Matrix
- Overview of Platform Support

ドキュメントのダウンロードでは、次のWebサイトで更新または最新バージョンがないか確認してください。

<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passportへの登録とサインインが必要です。HP Passport IDの登録は、次のWebサイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

または、HP Passport のログインページの **[New user - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポートサービスをお申し込みいただいたお客様は、更新版または最新版をご入手いただけます。詳細は、HPの営業担当にお問い合わせください。

注: PDF形式 (*.pdf) のファイルを表示するには、Adobe Acrobat Readerをインストールする必要があります。Adobe Acrobat Readerは、<http://www.adobe.com>からダウンロードできます。

インストールに関する注意事項

PPM Centerバージョン9.30のインストール手順は、『Installation and Administration Guide』を参照してください。

注: 『Installation and Administration Guide』の最新版は、HPのマニュアルサイトから取得できます。[こちら](#)をクリックしてください。オンラインヘルプにも記載されていない最新の更新内容を参照できます。

PPM Centerバージョン9.30へのアップグレード手順は、『Upgrade Guide』を参照してください。

PPM CenterのOperational Reportingを実装する手順は、『Operational Reporting Administrator's Guide』を参照してください。

言語パックのインストール手順は、『Release Notes for Language Pack for PPM Center 9.30』を参照してください。HPのマニュアルサイトから入手できます。

HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびHP GL MigratorへのアップグレードによるOracle E-Business Suite Release 12のサポート

HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびHP GL Migratorバージョン9.12用の一連のjarが、Oracle E-Business Suite Release 12のサポートを提供します。

各種リリースのOracle E-Business Suiteおよび各種バージョンのPPM CenterとHP Object Migratorを使用した、HP GL Migratorバージョン9.12のサポート可能性の詳細については、PPM Centerバージョン9.3x用の最新の『System Requirements and Compatibility Matrix』を参照してください。

インストールとアップグレード手順を含むHP GL Migratorバージョン9.12の詳細については、バージョン9.12用の『HP GL Migrator Guide』を参照してください。

PPM Centerバージョン9.3xを使用する場合、「[PPM Centerバージョン9.3xでの製品インストールシーケンス](#)」(8ページ)に記載するように、特定の製品のインストールまたはアップグレードシーケンスに従う必要があります。

拡張Jarで提供される新しいオブジェクトタイプ

「[PPM Centerバージョン9.3xでの製品インストールシーケンス](#)」(8ページ)で説明するように、HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite用のjarをインストールする必要があります。これらのjarは、Oracle E-Business Suite Release 12の移行をサポートするために使用する必要がある、次のPPM Centerオブジェクトタイプをインストールします。

- GL 912 :Budget Organisation
- GL 912 :Consolidations
- GL 912 :Cross Validation Rules
- GL 912 :FSG Row/Col Sets
- GL 912 :Journal Categories
- GL 912 :Journal Entry Sources
- GL 912 :Mass Allocation/Budget
- GL 912 :Summary Templates

これらの新しいオブジェクトタイプは、"GL 912:" プリフィクスを持たない既存のオブジェクトタイプに類似しています。ただし、GL 912 :FSG Row/Col Setsオブジェクトタイプが初めてHP GL Migratorバージョン9.12で提供される点は異なります(バージョン9.12については、『HP GL Migrator Guide』を参照)。

これらのオブジェクトタイプはOracle E-Business Suite Release 11iと下位互換であり、これらをインストールしても既存のオブジェクトタイプは上書きされません。

PPM Centerバージョン9.3xでの製品インストールシーケンス

HP GL Migratorバージョン9.12と関連する前提条件のデプロイを準備するには、HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite用の以下に示す拡張jarファイル(次のファイルをバンドルしている)をダウンロードします。

- HP GL Migratorバージョン9.12用の次のzipファイル:
 - CLGM_912.zip
 - CLGM_UPG_912.zip
- HP Object Migratorバージョン7.5用の次のzipファイル:
 - CLM_75.zip
 - CLM_75_tar.gz
 - CLM_UPG75.zip
 - CLM_UPG75_tar.gz
- HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteパッチ用の次のjarファイル:
`ppm-930-OracleApps.jar`
`ppm-930-OracleApps912.jar`
- HP Deployment Management Extension for Oracle Technologyバージョン9.30用の次のjarファイル:
`ppm-930-OracleTech.jar`

ベースとしてPPM Centerバージョン9.30(関連するサービスパックの有無を問わず)から始めて、次の製品のインストールまたはアップグレードを次のシーケンスで実行して、HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business SuiteおよびHP GL Migrator with Oracle E-Business Suite Release 12の使用をサポートする必要があります。

1. HP Object Migratorバージョン7.5(まだインストールされていない場合)。
バージョン7.5用の『HP Object Migrator Guide』を参照してください。

2. HP GL Migratorバージョン9.12。

バージョン9.12用の『HP GL Migrator Guide』を参照してください。

3. PPM Centerバージョン9.30 (まだインストールされていない場合)。

バージョン9.30用の『Installation and Administration Guide』、必要に応じてサービスパックの『リリースノート』を参照してください。

4. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.30 (まだインストールされていない場合)。

バージョン9.30用の『HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite Guide』を参照してください。

5. HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suite (HP Deployment Management Extension for Oracle E-Business Suiteバージョン9.30とHP GL Migratorバージョン9.12がOracle E-Business Suite Release 12をサポートできるようにするため)。

注: 拡張jarをデプロイするには、次のインストールコマンドを使用する必要があります。

```
sh kDeploy.sh -i OracleApps912
```

HP Deployment Management Extension for Oracle Technologyは、PPM Centerバージョン9.3xのインストール後はいつでもインストールできます。

ソフトウェアとハードウェアの要件

PPM Centerバージョン9.30をインストールする前に、システムが『System Requirements and Compatibility Matrix』(HPマニュアルサイトで入手可能)に記載されている最小要件を満たしていることを確認してください。

既知の問題と制限事項

PPM Centerバージョン9.30 (またはその他の指定ソフトウェア)では、次の問題と制限事項が確認されています。問題は、影響が生じる製品領域ごとに分類されています。問題には内部追跡番号が割り当てられています。この追跡番号は、問題の説明の最後に括弧で示されています。

アクセラレータ - ベストプラクティス

問題: (PPM Centerバージョン9.20以降) ベストプラクティスのデプロイ後、[検索] > [プロジェクト リスク] をクリックすると、次のエラーが発生します。"Request type business key, _PROJECT_RISK not found". (QCCR1L51372)

回避策: PPM Centerインスタンスをバージョン9.30にアップグレードした後で問題が発生した場合、次のコマンドを実行します。これにより、バージョン9.30にバンドルされている更新済みのベストプラクティスが再度デプロイされます。

```
sh ./kDeploy.sh -best-practices
```

ダッシュボード

問題: リクエストの説明にHTML関連の文字が含まれている場合、そのリクエストは[マイ リクエスト] ポートレットに表示されません。(QCCR1L42543)

回避策: リクエストの説明には、HTML関連の文字を指定しないでください。

問題: PPM Centerポートレットに「program」という単語が含まれている場合、「program」の中国語の新しい翻訳が表示されず、古い翻訳が表示されます。(QCCR1L27636)

回避策: ありません。

問題: ポートレットの名前が30文字を超える(空白を除く)場合、[ポートレットの追加]で[ポートレットの検索]をクリックすると、ポートレット名の列幅が自動調整され、他の列が右端に移動するため、水平スクロールバーが使用できなくなります。文字数が多い(100文字など)場合には、ウィンドウの右側にあるボタンが表示されなくなります。(QCCR1L41717)

回避策: [ポートレットの追加] ウィンドウを最大化します。

HP Demand Management

制限事項: ACL検証のSQLステートメントのWHERE句と、検証のフィルタフィールドのSQLステートメントに同じトークンを指定した場合、PPM Center Webページのトークンと関連付けられているフィールドの値を変更すると、PPM CenterはACLフィールドに何も値を返しません。(QCCR1L54208)

回避策: ACL検証のSQLステートメントのWHERE句で使用するトークンの値はWebページから取得され、検証のフィルタフィールドのSQLステートメントで使用するトークンの値は、PPM Centerデータベースから取得されることが原因です。

この問題を回避するには、ACL検証のSQLステートメントのWHERE句と、検証のフィルタフィールドのSQLステートメントには、同じトークンを使用しないでください。

問題: テーブルコンポーネントタイプのフィールドに入力できるエントリ数には最大 500 の制限があります。
(QCCR1L55387)

回避策: ありません。

制限事項: あるワークフローステップのアクセス許可のみを持っているユーザがリクエストを検索する場合、このワークフローを使用するリクエストタイプを選択できません。(QCCR1L44594)

回避策: ありません。

制限事項: [リクエスト検索結果] ページで複数のリクエストを選択して **編集** > **クイック編集** ボタンをクリックすると、次のエラーメッセージが表示されます。

An unknown error has occurred. For more information, please contact your PPM administrator and provide the following GUID number...

(QCCR1L50677)

回避策: この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- リクエストをいくつか選択して **編集** > **クイック編集** を選択します。
 - 次のように設定します。
 - a. PPMサーバを停止します。
 - b. <PPMホーム>/server/<PPMサーバ名>/deploy/jbossweb-tomcat55.sar/server.xml ファイルを開き、maxThreads="150" のすぐ後に maxPostSize="0" を追加します。
 - c. **保存** をクリックして変更内容を保存します。
 - d. <PPMホーム>/server/<PPMサーバ名>/tmp ディレクトリと <PPMホーム>/server/<PPMサーバ名>/work ディレクトリの内容を消去します。
 - e. PPMサーバを再起動します。
-

制限事項: PPM Center でワークフローステップに通知を送信する場合、受信者の数が多く、次のような設定を行う場合、送信が失敗します。

1. PPM Workbench の [新規受取人の追加] ウィンドウで、**ユーザ定義トークンの入力** を選択します。
2. **ユーザ定義トークン** フィールドに、テキストフィールドのトークン名を入力します。
3. **受取人タイプ** フィールドで、**電子メールアドレス** を選択します。(QCCR1L51955)

回避策: この問題の原因はテキストフィールドにあります。電子メールアドレスを保存するデータベース列に入力可能な文字は、最大 80 文字 (i 区切り文字を含む) という制限があります。

この問題を解決するには、PPMサーバを停止して次のSQLを実行します。

```
alter table knta_notif_txn_recipients modify email_address varchar(1000 CHAR);
```

SQLの実行後にKNTA_NOTIFICATIONパッケージでエラーが発生した場合には、すべてのパッケージを再コンパイルします。

制限事項: リクエストブラウザを使用してリクエストを検索する場合 ([開く] > [Demand Management] > [リクエスト ブラウザ] > [リクエストの参照])、[リクエスト ブラウザ ツリーで表示する追加列を選択] セクションの [列値] フィールドで選択可能な値は最大8個です。(QCCR1L51965)

回避策: PPM Centerバージョン9.22では、[列値] フィールドで値を12個まで選択できます。

問題: ワークフローステップの通知またはリクエストフィールド変更を送信するとき、PPM Centerは次のように動作します。

- 受信者がPPM CenterのユーザでPPM Centerに1回以上ログインしたことがある場合、PPM Centerでは、ユーザはロケール(地域設定と表示言語)ごとにグループ分けされます。
- 受信者がPPM Centerのユーザではなく、PPM Centerユーザアカウントは持っているがPPM Centerにログインしたことがない場合、PPM Centerはこのユーザを1つのグループにまとめます。

したがって、分類されるグループが異なると、通知される電子メールも異なります。(QCCR1L52110、QCCR1L52245)

回避策: この問題は、PPM Centerにログインしたユーザのみにロケールが設定されることが原因で発生します。この問題を解決するには、次の手順を実行し、PPM Centerのユーザではなく、PPM Centerにログインしたことがないユーザすべてにデフォルトのロケールを定義する必要があります。

1. SERVER_LOCALE_COUNTRY_CODEサーバ構成パラメータに値を設定します。デフォルト値はnullです。有効な値は、国を大文字の2文字に省略した値です。

たとえば、米国にデフォルトの地域設定を行う場合、SERVER_LOCALE_COUNTRY_CODEサーバ構成パラメータをUSに設定します。

2. SERVER_LOCALE_LANGUAGE_CODEサーバ構成パラメータに値を設定します。デフォルト値はnullです。有効な値は、言語を小文字の2文字に省略した値です。

たとえば、英語にデフォルトの表示言語を設定する場合、SERVER_LOCALE_LANGUAGE_CODEサーバ構成パラメータをenに設定します。

これにより、PPM CenterはPPM CenterユーザとPPM Center以外のユーザすべてを対象に通知を送信します。

問題: [ワークフロー ステップ] ウィンドウの [タイムアウト] タブでは、PPM Centerが通知を送信する際にワークフローステップに適用するタイムアウトを設定します。ただし、タイムアウト設定が正常に機能しません。(QCCR1L47224)

回避策: この問題の原因は、step_transaction_idの保存に使用されているp_step_txn_group_IN_list変数に、文字数の上限があるためです。保存できるトランザクションIDの上限はおおよそ4,000となっています。

この問題を解決するには、次のクエリを実行して、通知が保留中のトランザクションが上記の上限を超えていないかどうかを確認します。

```
select step_transaction_id FROM KWFL_PENDING_STEP_TIMEOUTS_V
```

返された行数が4000を超えている場合、KWFL_Step_Transactionsテーブルのtimeout_date列を更新します。たとえば、次のSQLを実行します。

```
update KWFL_STEP_TRANSACTIONS  
set TIMEOUT_DATE = sysdate +floor(rownum / 3000)  
where STEP_TRANSACTION_ID in  
(select STEP_TRANSACTION_ID from KWFL_PENDING_STEP_TIMEOUTS_V)
```

SQLを実行すると、3000行ごとにタイムアウトの日付がバッチで更新されます。最初のバッチの日付は現在の日付に設定され、バッチ番号が増えると1日後の日付になります。これにより、PPM Centerは1日あたり3000件のトランザクションの通知を送信することになり、文字数の上限を超えることがなくなります。

制限事項: リクエストヘッダタイプ (RHT) に、添付ファイルフィールドが含まれているリクエストタイプがあります。たとえば、このリクエストタイプでリクエストを送信し、フィールドにファイルを添付します。リクエストの詳細ページで、リクエストタイプを別のRHTのタイプに変更し、変更内容を保存します。ターゲットとオリジナルのRHTの添付ファイルフィールドでいずれも同じパラメータが指定されている場合、添付ファイルのリンクをクリックすると、次のエラーメッセージが表示されます。You do not have access to this page... (KNTA-11013)

リクエストタイプを元のタイプに戻すと、添付ファイルにアクセス可能になります。(QCCR1L50552)

回避策: ありません。

制限事項: PPM Centerでは、テーブルコンポーネントの検証 (編集可能または読み取り専用) の設定に、UIルールであるsetFieldEditable()を使用できません。(QCCR1L51073)

回避策: ありません。

制限事項: [リクエスト詳細] ページにワークフローステップのグループが複数あり、ブラウザですべてのワークフローステップを表示できない場合、[その他のアクション] ボタンが表示されます。ただし、ブラウザウィンドウのサイズを変更または戻すと、1つまたは複数のワークフローステップが表示されなくなります。この問題が発生するのは、ブラウザウィンドウの幅が狭く[その他のアクション] ボタンが表示されないことが原因です。(QCCR1L52165)

回避策: この問題を解決するには、次のいずれかの操作を実行します。

- ブラウザを最大化する。
- コントロールパネルで、より高い画面解像度を選択する。

- [Ctrl] キーと[-] キーを押してブラウザを縮小表示する。

問題: SQLルールを使用してプロジェクト名を取得し、[リクエスト詳細] ページに表示します。プロジェクト名にアンパサンド記号 (&) が含まれていると、[リクエスト詳細] ページにアンパサンド記号が表示されず、名前が途中で切れてしまいます。(QCCR1L46993)

回避策: PPM Centerは、区切り文字に「#@#」を使用します。以下を確認してください。

- SQLルールで指定する値に「&」と「#@#」が含まれていない
- SQLルールに「#@#」が含まれていない

「#」と「@」は個別には使用できません。

問題: 直前のステップが実行ステップであり、プロセッシングタイプが[即時]に設定されている場合、ステータス依存関係 (クリアなど) は、現在のステップでトリガされません。このタイプのステータス依存関係には、ユーザによる操作が必要になります。(QCCR1L12363)

回避策: ありません。

問題: PPMバージョン7.5から8.0への移行後、PPM Centerにログインしてセッション言語にドイツ語を選択します。[リクエスト詳細] ページまたは[リクエストの検索] ページでカレンダーアイコンをクリックし、日付 (短い日付) を選択します。すると、ドイツ語で「日付フィールドの形式に誤りがあるので、リクエストを保存できません」というエラーメッセージが表示されます。(QCCR1L16011)

回避策: 現在の地域設定を[ドイツ語]に変更します ([開く] > [管理] > [マイ プロファイルの編集] > [地域設定])。

制限事項: PPM Centerは、KCRT_REQ_HEADER_DETAILSテーブルの[リクエスト ヘッダタイプ] (RHT) フィールドを保存しますが、列数に50列の上限があります。(QCCR1L13835)

回避策: ありません。

問題: sys.dualのKNTA_MULTI.Find_User_full_names([SYS.USER_ID])を使用するルールがリクエストに含まれている場合、このリクエストを保存使用とするとエラーが発生するか、リクエストから関連のエンティティを削除しようとするとエラーが発生します。(QCCR1L24349)

回避策: sys.dualのKNTA_MULTI.Find_UserNames([SYS.USER_ID])を使用してください。

制限事項: [テキスト フィールド] が、リクエストタイプWorkbenchの[ルール] タブにある[依存関係] セクションの[オートコンプリート] リストまたは[ドロップダウン] リストの値に「等しい」という設定が行われている場合、この依存関係は適切に適用されません。[テキスト フィールド] が、[オートコンプリート] リストまたは[ドロップダウン] リストのコードに一致する設定が行われている場合には、依存関係は正しく適用されます。(QCCR1L27020)

回避策: [オートコンプリート] リストまたは [ドロップダウン] リストの値はローカライズ可能なので、依存関係に整合性の問題が発生する可能性があるため、[テキスト フィールド] コードと [オートコンプリート] リストまたは [ドロップダウン] リストに一致させる設定は、リクエストタイプフィールドの依存関係を設定する際に行うことをお勧めします。

制限事項: リクエストの作成で、リクエストタイプによる検証が存在しないトークンを参照する場合、トークンの解析エラーが発生します。(QCCR1L27418)

回避策: リクエストタイプ、レポートタイプ、オブジェクトタイプで検証を指定する際には、検証が参照するトークンが存在することを確認してください。

制限事項: [リクエストの検索] ページの [リクエスト タイプ] フィールドまたは [選択した列] リスト内の項目数が多すぎると、検索設定を保存する際にエラーが発生することがあります。(QCCR1L39090、QCCR1L47244)

回避策: [リクエストの検索] ページの [リクエスト タイプ] フィールドと [選択した列] リストには、項目数が多くなり過ぎないように注意してください。パフォーマンス上の理由から、[リクエスト タイプ] フィールドと [選択した列] リストの項目数が1500文字を超えないようにすることをお勧めします。

制限事項: 「印刷用バージョン」と印刷機能を持つリクエストに高度なルールを適用する場合、プレビューと印刷データが、画面表示と一致しません。(QCCR1L39873)

回避策: ルールは [リクエスト詳細] の印刷用バージョンで実行できるようになりましたが、次のような制約事項があります。

- SQLルールとUIルールであるsetFieldVisible()のみが実行されます。
 - [ページ読み込み時に適用] ルールイベントのみがサポートされます。
 - 印刷用バージョンは、URLアドレスを直接入力するのではなく、[リクエスト詳細] ページから開いてください。
-

制限事項: ステータス依存関係を使用して、フィールドを「Display = No」(非表示)に設定した場合、UIルールではWeb UIで表示されません。(QCCR1L40010)

回避策: ありません。

制限事項: 階層表示 (ツリー検証) のSQLは、静的トークン ([SYS.USERNAME] と [SYS.USER_ID]) の解決をサポートします。

これ以外のタイプのトークン (リクエスト詳細やコンテキストに関連するトークンなど) はサポートされません。(QCCR1L40379)

回避策: 現時点ではありません。

制限事項: オートコンプリートコンポーネントの有効な値リストがクライアントUIに表示されません。したがって、オートコンプリートコンポーネントに値を設定するルールを使用すると、値が検証されず、無効な値も設定可能になります。その結果、ユーザがリクエストを作成する際、オートコンプリートリストに含まれない値の入力が可能になり、SQLルールによってトリガされるとオートコンプリートフィールドに保存されます。(QCCR1L41050)

回避策: PPM管理者が、SQLルールでオートコンプリートリストの値を設定する場合には、有効な値のみを設定するように注意してください。

問題: フィールドグループである [プログラムの問題: リクエストをプログラムの問題としてみなせませ] をリクエストヘッダタイプで有効にしても、リクエストヘッダタイプの [フィールド] タブには [プログラムの問題] セクションが追加されません。(QCCR1L41722)

回避策: これは設計上の挙動であり、機能的には問題ありません。このリクエストヘッダタイプを使用するリクエストタイプは、プログラムの問題タイプとして使用でき、プログラムの問題の追跡でも利用できます。

制限事項: ルールの依存関係で、依存関係フィールドに負の値として () パターンを指定した場合、この依存関係はサポートされません。たとえば、(1000) で-1000を指定する場合があります。(QCCR1L42478)

回避策: 現時点ではありません。

問題: [クイック編集] または [一括更新] を、[PFM - 月別終了期間] 検証を使用して非 PFM 提案リクエストタイプで実行するとエラーが発生します。これは、[PFM - 月別終了期間] 検証では SQL が実行するトークン KNTA_PLAN_START_DATE を使用したフィールドが必須ですが、非 PFM 提案リクエストタイプのほとんどでこのようなフィールドがないためです。(QCCR1L43340)

回避策: [PFM - 月別終了期間] 検証を、非 PFM - 提案リクエストタイプに使用しないでください。

制限事項: ジャンプ/受信ワークフローを使用する際、パッケージ明細をすべて送信し、いずれかのパッケージワークフローを開始した後、新しいパッケージ明細をパッケージに追加します。これにより、パッケージとリクエストは同期しない状態になります。(QCCR1L45417)

回避策: すべてのパッケージ明細を追加してから、明細のパッケージワークフローを開始します。

問題: (Sun Solarisのみ) 実行ワークフローステップが先頭にあるワークフローを使用して、リクエストを送信します。ワークフローは次のステップを処理できず、リクエストの [実行ログ] ページに次のようなエラーメッセージが表示されます。

```
The attachment file could not be downloaded.The file:REQ_XXXX/REQ_XXXX_BID_XXXXX.html no longer exists on the server...
```

このエラーは Sun Solaris のシステム上の制限が原因で発生します。1つのディレクトリに追加できるサブディレクトリには、32768 (32k)、一部のバージョンでは 65536 (64k) という上限があります。リクエストの PPM ワークフローがコマンドを実行すると、実行情報をログに記録するフォルダを作成するので、ワークフロー内

のコマンドを実行するリクエストが多数存在する場合にはこの上限を超える可能性があります。
(QCCR1L47984)

回避策: ディレクトリクリーンアップサービスに、リクエストのログファイルを定期的に削除するタスクを追加します。WEB_FILE_CACHE_LIFETIME_IN_DAYSサーバ構成パラメータのデフォルト値は7です。したがって、リクエストのログファイルは作成から7日で削除されます。このパラメータ値は、必要に応じて増減できます。

問題: 英語を使用しない地域で地域言語が英語以外に設定されている場合、この地域でリクエストを作成すると、ユーザは承認通知の電子メールを受信できなくなります。(QCCR1L48350)

回避策: PPM CenterにMultilingual User Interface (MLU) をインストールしてください。

問題: [ダッシュボード] ページの [リクエスト リスト] ポートレットの最後のページにリクエストが1つだけ表示されている場合、リクエストを開いてキャンセルした後、[ダッシュボード] ページに戻ると、[リクエスト リスト] ポートレットに結果が表示されません。[ダッシュボード] ページを閉じてから開くと、ポートレットは正しく動作します。(QCCR1L48445)

回避策: ありません。

HP Deployment Management

問題: ksc_copyコマンドがリクエストタイプ [移行] で動作しないことが原因で、送り先の環境にバンドルを転送する処理が失敗します。(QCCR1L40858)

回避策: [環境ユーザデータ] で **DISABLE_SCP_FILENAME_QUOTE** 変数を設定します。

問題: 送り元の環境から送り先の環境へのファイル転送をReflection for Secure IT for Unix (バージョン7.1) サーバで実行する場合、ワークフローの実行ステップで環境が設定されていると処理が失敗します。(QCCR1L24976)

回避策: Reflection for Secure IT for Unixサーバを使用してファイル転送を行うには、次の手順を実行します。

1. 新しい環境ユーザデータを作成し、次の値を指定します。
 - [フィールド プロンプト]: **DISABLE_SCP_FILENAME_QUOTE**
 - [トークン]: DISABLE_SCP_FILENAME_QUOTE
 - [有効]: はい
 - [検証]: はい/いいえ ラジオボタン
 - [ユーザデータ列]: ドロップダウンリストから値を選択します。

- **[表示]**: はい
- **[表示のみ]**: しない
- **[必須]**: しない

次に、新しく作成したユーザデータを、使用する環境で有効にします。

ユーザデータの作成と有効化の詳細については、『HP Deployment Management Configuration Guide』を参照してください。

2. ステップで使用したサーバ環境とクライアント環境を記録しておきます。
3. ワークフローの実行ステップを設定し、上記で記録したおいたサーバ環境とクライアント環境の値を**[送り元の環境]**フィールドと**[送り先の環境]**フィールドで指定します。

問題: [オブジェクト タイプ] で環境トークンを指定し、特殊コマンド `ksc_copy_server_server` の引数として送り元と送り先の環境を指定する場合、Reflection for Secure IT for Unix (バージョン7.1) サーバを使用し、送り元環境から送り先環境にファイルを転送する処理でエラーが発生します。(QCCR1L27758)

回避策: QCCR1L24976の回避策の手順に従って、環境設定を変更します。

HP Portfolio Management

制限: `COST_CAPITALIZATION_ENABLED` server.conf パラメータは、管理コンソールを使用して変更できません。(QCCR1L41323)

回避策: server.conf パラメータでは、必要に応じてフラグを直接変更できます。ただし、HPでは、コストの資産計上が有効になっている場合、無効にしないことを強くお勧めします。

問題: トランザクション履歴またはメモの履歴は、PFM - 資産、PFM - プロジェクト、または PFM - 提案のリクエストヘッダータイプ、あるいはこれらのリクエストヘッダータイプのいずれかのコピーの**[関連付けられたプログラム]**フィールドで有効にできません。[はい] または [いいえ] を選択しても、これらの監査機能は有効になりません。(QCCR1L26865)

回避策: なし。

HP Program Management

問題: プログラムのリスクリクエストタイプは使用できません。

回避策: プログラムのリスクリクエストタイプは、[ベストプラクティス] コンテンツの一部です。このコンテンツを使用するには、ベストプラクティスをインストール/再インストールする必要があります。

HP Project Management

制限: Firefoxブラウザを使用していて、[プロジェクト/タスク/リクエスト/パッケージのタイムシートへの追加] ウィンドウで [検索の変更] をクリックすると、前に入力した検索基準が消去されます。
(QCCR1L53555、QCCR1L53570)

回避策: 代わりにInternet Explorerブラウザを使用するか、Firefoxブラウザで再度フィルタフィールドに入力します。

問題: 財務サマ리를Excelファイルにエクスポートすると、Excelのデータ形式がPPM Centerのものと異なります。(QCCR1L44632)

回避策: コントロールパネルからオペレーティングシステムの地域設定を変更し、[マイプロファイルの編集] ページの [地域設定] タブ ([開く] > [管理] > [マイプロファイルの編集] > [地域設定]) で設定されている現在の地域設定と同じにします。

問題: 作業計画をPDFとExcelの両方にエクスポートするときに、作業計画に含まれるタスクにダブルバイトの数字が含まれていると、エクスポートされるPDFとエクスポートされるExcelは異なるものになります。エクスポートされるPDFでは、タスク名にダブルバイトの数字は含まれません。(QCCR1L14109)

回避策: なし。

問題: ユーザが [作業計画] ページからタスクの外部先行タスクを編集する場合、タスクを保存すると、外部先行タスクが削除されます。(QCCR1L27616)

回避策: [タスクの詳細] ページを使用して、タスクの外部先行タスクを編集します。[作業計画] ページからタスクの外部先行タスクを編集しないでください。

問題: すべてのユーザに対してPPM用プラグインをインストールすると、インストールは完了しますが、Microsoft ProjectでHP PPM Centerメニューが表示されません。この理由は、Microsoft Office 2007修正プログラム976811でWindows VistaとWindows XPのオペレーティングシステムのみサポートされているためです。(QCCR1L39188)

回避策: 現在のユーザに対してのみPPM用プラグインをインストールします。

問題: 財務サマ리를Excelファイルにエクスポートすると、Excelのデータ形式がPPM Centerのものと異なります。(QCCR1L44632)

回避策: コントロールパネルからオペレーティングシステムの地域設定を変更し、[マイプロファイルの編集] ページの[地域設定] タブ ([開く] > [管理] > [マイプロファイルの編集] > [地域設定]) で設定されている現在の地域設定と同じになります。

問題: 作業計画の構造を変更すると、コストロールアップサービスの実行後に、計画価値、アードバリュー、CPI、およびSPIの値が0になります。(QCCR1L56155、QCCR1L55737)

回避策: アードバリュー分析のために計画価値、アードバリュー、CPI、およびSPIの値を取得するには、任意の作業計画構造の変更後に、プロジェクトの新しいベースラインを再作成します。

問題: [プロジェクトの概要] ページの[コスト] タブで、[アードバリュー分析] ビューの範囲を調整してプロジェクトへのインパクトをモデル化すると、EACT値がX軸上の開始月より前の月を対象としている場合、[アードバリュー分析] グラフの図がフレーム外に表示される可能性があります。(QCCR1L55862)

回避策: なし。

統合

統合 - Quality Center (ALM)

制限事項: QC/ALMプロジェクト名にラテン文字以外の文字 (ロシア語など) が含まれていると、統合が失敗します。(QCCR1L47799)

回避策: QC/ALMプロジェクト名には、ラテン文字のみを使用します。QC/ALM RESTful APIは、ラテン文字以外の文字をサポートしません。

問題: (Quality Centerバージョン10.00との統合のみ) PPM Centerのアップグレード後、[リクエスト ヘッダ タイプ] がリクエストタイプで [QC/ALM不具合情報] フィールドグループ (PPM Centerバージョン9.14以前ではQuality Center不具合情報) を再読み込みし (フィールドグループの選択を解除してから再度選択)、Quality Centerで不具合を作成してPPM Centerでリクエストを新規作成すると、エラーが発生することがあります。(QCCR1L46633)

回避策: [レイアウト] タブで、フィールドグループフィールドのレイアウトをデフォルトに戻し、リクエストヘッダタイプを変更します。たとえば、フィールドは、QC/ALMインスタンス、QC/ALMドメイン、QC/ALMプロジェクトの順序になります。

制限事項: QCまたはHP ALM内のステータスの値が英語以外 (中国語など) の場合、Quality Center 10.00またはHP ALM 11.xから不具合または要件のステータスを同期できなくなります。(QCCR1L47995)

回避策: ありません。

統合 - プロジェクト品質の表示

問題: (IEのみ) [プロジェクト品質の表示]の統合の最初のページで統合構成を追加する際、[QC/ALMサーバ名]フィールドに長い名前を入れると、プロジェクト品質の表示統合設定のリスト表示が乱れます。

回避策: 短い名前を入力してください。

制限事項: PPMタスクをHP ALMリリースにマッピングする際、ターゲットHP ALMサーバの値がドイツ語または韓国語の場合、フィルタを追加して[ALM基準]に指定してから、[基準値]の選択アイコンをクリックすると、HP ALM REST APIがHP ALMから取得する値はポップアップウィンドウで文字化け(???)などすることがあります。

回避策: ありません。

制限事項: PPMタスクをHP ALMリリースにマッピングしてフィルタを追加すると、HP ALMの非表示フィールドの一部がHP ALM REST APIに取得され、[タスクの詳細]ページにある[品質]タブの[ALM基準]列に表示されます。次に、表示されてしまう非表示フィールドを示します。

- 不具合: **メールで通知**
- 要件: 「**RBQM**」で始まるフィールドの一部。

回避策: ありません。

問題: PPMタスクをHP ALMリリースにマッピングしてフィルタを追加する際、[タスクの詳細]ページ内の[品質]タブの[基準値]列にある[件名]フィールドが空白でも、HP ALM REST APIはテスト計画フォルダ名をHP ALMから使用可能な値として取得します。

回避策: ありません。

統合 - Universal CMDB

問題: (PPM Centerバージョン9.20以降) インパクト分析のためにPPM CenterとUniversal CMDBを統合する場合、「;」記号がサポートされません。UCMDB CI名に「;」記号が含まれていると、区切り文字として処理されるので、選択したCIをリクエストに読み込むと、PPM Centerリクエストの[インパクトを受ける構成アイテム]セクションには2つに分かれて表示されます。(QCCR1L52964)

回避策: ありません。

統合 - HP Agile Manager

制限事項: PPM CenterのタスクとHP Agile Managerをマッピングすると、PPMサーバからHP Agile Managerへのアクセスにカスタマイズしたプロキシまたはグローバルプロキシを使用した場合、マッピングしたタスクの[タスクの詳細]ページにある[ハイブリッド プロジェクト]タブにAgileリリース関連のグラフが表示されなくなります。(QCCR1L56200)

回避策: ありません。

制限事項: 9.30以降のバージョンでは、HP Agile Managerとの統合はAgile Open SDKによって提供されません。Agile Open SDKが提供する統合ソリューションを使用すると、PPM CenterタイムシートとHP Agile Managerを統合できません。(QCCR1L55822)

回避策: PPM CenterのタイムシートとHP Agile Managerを統合する必要がある場合は、9.22を使用するか、統合を使用可能にするパッチリリースが9.30で提供されるまでお待ちください。

制限事項: マップされていないタスクをインデントまたはアウトデントして、ウォーターフォールプロジェクトまたはアジャイルプロジェクトにマッピングされたタスクのリーフタスクにする場合、マップされていないタスクが同期後に削除されることがあります。(QCCR1L55750)

回避策: マップされていないタスクをインデントまたはアウトデントして、ウォーターフォールプロジェクトまたはアジャイルプロジェクトにマッピングされたタスクのリーフタスクにする操作は行わないようにしてください。

インストール

制限事項: (AIXシステムのみ) AIXシステムでのアップグレード時、2バイト言語 (簡体字中億語、韓国語、日本語など) を選択し、AIXに接続するクライアント側ツールとしてMobaXtermを選択すると、一部のラベル名が表示されず、アップグレードでエラーが発生することがあります。(QCCR1L49613)

回避策: この問題を解決するには、KINS_ACTIONSテーブルのデータを消去し、アップグレードエラーが発生したステップから再試行します。

iPad認定

問題: PPMダッシュボードページ上の[マイタスク]ポートレットでは、[工数の内訳を編集]をクリックした後、ポップアップウィンドウ内の入力フィールドが狭くなり、入力データを表示できなくなります。

回避策: なし。

問題: 次のページのテーブルのソート順序は、列見出しをクリックしても変更できません。

- [ポートフォリオの表示] ページの [下位ポートフォリオ]、[プログラム]、および [提案/プロジェクト/資産] タブ
- [シナリオ比較] ページの [シナリオコンテンツ] セクション

回避策: なし。

制限: [プログラムの概要] ページの [参照] セクションまたは [タスクの詳細] ページの [参照] タブで参照を追加後に、[保存時に追加される参照] フィールドに新たに追加した参照が表示されません。

(QCCR1L49441)

回避策: なし。

問題: [作業計画の表示] ページと [プロジェクトの設定] ページが正しく動作しない場合があります。たとえば、[作業計画の表示] ページの [名前] または [先行タスク] 列をクリックすると、作業計画が切り詰められます。

回避策: コンピュータ上でこのようなアクションを実行することをお勧めします。

問題: [管理コンソール] ページ上で何もアクションを実行できません。

回避策: なし。

問題: PPM Center ページ上で右クリックに関連する機能を使用できません。これはiPadが右クリックをサポートしていないためです。

回避策: なし。

問題: PPM Center 使用時にスタイルに関連する問題が発生する場合があります。たとえば、[リソースプールの管理] ページのテーブルがページの右側の境界からはみ出します。

回避策: なし。

問題: PPM Center ページをPDF/EXCELファイルにエクスポートできません。

回避策: なし。

制限: PPM Center ページ上にヒントが表示されません。これは、モバイルデバイスの Apple Safari が Alt/Title 属性をサポートしていないためです。

回避策: なし。

制限: (Apple iOS 5.0のみ) PPM Center ページ上でファイルをアップロードできません。これは、Apple iOS 5.0 がファイルのアップロードをサポートしていないためです。

回避策: なし。

制限: iPadの制限のため、Microsoft Silverlightを利用する機能を使用、またはApplication Portfolio ManagementでEXCELファイルをダウンロード/アップロードできません。

回避策: なし。

複数言語ユーザインタフェース (MLU)

制限: アラビア語はPPM Centerアップグレードウィザードでは使用できません。(QCCR1L55950)

回避策: なし。

制限: 中国語文字などの特殊文字を含むシナリオを保存することはできません。(QCCR1L55863)

回避策: なし。

問題: 言語パックをデプロイする場合、ログにはシステム言語を除くすべての言語に対して次のエラーが表示されます。

```
[java] java.sql.SQLIntegrityConstraintViolationException:  
ORA-02291: Integrity-Constraint (GEEK_01.KNTA_NOTIFICATIONS_ LOC_FK) violated
```

このエラーには機能上のインパクトはありません。(QCCR1L27539)

回避策: なし。

問題: PPM Centerを(たとえば、スウェーデン語に)ローカライズされたWindowsプラットフォームにインストールしている場合、インストーラウィザードのMLUステップでは、英語とシステムの言語(この場合、スウェーデン語)がデフォルトで選択されます。インストール後にPPM Centerを起動すると、PPM Centerログオンページの[言語]ドロップダウンリストでは英語しか使用できません。デフォルトで選択したシステムの言語は、インストールされませんでした。

インストーラウィザードのMLUステップで、英語とシステムの言語(この場合、スウェーデン語)に加えて3番目の言語(たとえば、韓国語 say, Korean)を選択したとします。この場合、インストール後にPPM Centerを起動すると、PPM Centerログオンページの[言語]ドロップダウンリストでは、英語とインストール中に選択した3番目の言語(この場合、韓国語 say, Korean)しか使用できません。デフォルトで選択したシステムの言語は、インストールされませんでした。

(QCCR1L55604)

回避策: PPM Centerインスタンスのインストール後に、次のようにkDeployスクリプトを実行して、目的の言語パックを再デプロイします。

```
sh ./kDeploy.sh -lang <locale>
```

この場合、次のスクリプトを実行してスウェーデン語言語パックをデプロイします。

```
sh ./kDeploy.sh -lang sv
```

問題: アラビア語のPPMサーバのインストール中に、インストールウィザードのMLUステップで、一部の言語名がアラビア語でなくまだ英語で表示されます。(QCCR1L55838)

回避策: なし。

制限: PPM Centerでは、次のような場合、アラビア語文字列を正しく表示できません。

- PPM Centerでは、アラビア語言語パックの適用後に、アラビア語文字列 (たとえば、プロジェクト名) に次の任意の組み合わせが含まれている場合、一部のページ ([リクエスト検索結果] ページや [プロジェクトの概要] ページなど) 上でアラビア語文字列を正しく表示できません。

- 数字 + アラビア語 + 非アラビア語 (スペースの有無を問わず)
- 数字 + アラビア語 + 数字 (スペースの有無を問わず)
- 非アラビア語 + アラビア語 + 数字 (スペースの有無を問わず)
- アラビア語 + 非アラビア語 + 数字 (スペースの有無を問わず)
- アラビア語 + 数字 + 非アラビア語 (スペースの有無を問わず)

アラビア語は常に出力表示の右側に移動されます。

(QCCR1L54179、QCCR1L54453、QCCR1L54300、QCCR1L54292、QCCR1L54519、QCCR1L54258)

- UI要素の左揃えの問題。PPM CenterのUI要素は、アラビア語言語パックの適用後に依然左揃えになります。
- ハードコーディングされたUI要素の表示上の問題。PPM CenterページにハードコーディングされたUI要素 (たとえば、ピリオドやカンマなどの句読点記号や [はい]/[いいえ] ラジオボタン) が含まれている場合、そのページにアラビア語でアクセスすると、表示上の問題が発生します。
 - ピリオドとカンマの表示上の問題。ピリオドとカンマの場所はハードコーディングされているため、アラビア語言語パックの適用後も、そのままの場所に表示されます。たとえば、ピリオドは、その正しい場所であるアラビア語文の左端に移動する代わりに、文頭に留まります。
 - ラジオボタンの表示上の問題。ページ上でアラビア語変換を使用したラジオボタンのレイアウトは紛らわしくなります。(QCCR1L54181、QCCR1L54319)
- 括弧の表示上の問題。アラビア語文字列に括弧、つまり "(" と ")" が含まれている場合、PPM Centerは文字列を正しく表示できません。(QCCR1L54259、QCCR1L54518)

回避策: なし。

問題: 次のシナリオで、Javaスクリプトのエラーメッセージ (Errors on this webpage might cause it to work incorrectly) が表示されます。

- PPMへのログイン時
- PPMダッシュボードの読み込み時
- [プロジェクトの概要] ページのオープン時
- リクエストの削除時
- ポートレットのオープンまたはカスタマイズ時

回避策: メッセージウィンドウの[閉じる]をクリックすると、Javaスクリプトエラーを安全に無視できます。今のところ、機能上のインパクトは見つかっていません。

制限: PPM Centerでは太陰暦はサポートされていないため、アラブ諸国用のイスラム暦はありません。(QCCR1L54422)

回避策: なし。

問題: アラビア語のPPM Centerページでは、[完了]アイコンが切り詰められます。(QCCR1L54321、QCCR1L54271)

回避策: なし。

問題: すべての必須フィールドに入力せずにエンティティ(たとえば、リクエスト)を作成すると、エンティティの保存時に表示される警告メッセージから必須フィールドへのリンクが欠落します。

回避策: なし。

問題: アラビア語のセッションでページまたはポートレットをPDFにエクスポートすると、エクスポートされたPDFファイルはほとんど空になり、アラビア語の文字列を表示できません。

回避策: なし。

プラットフォーム

制限: ワークフローステップで使用されるドロップダウンリスト検証の場合、PPM CenterではプリフィクスがREQ、REQD、またはWFのトークンを処理しません。(QCCR1L53969)

回避策: なし。

制限: server.confファイル用のクラスタに共有フォルダがない場合、特定のノードへのログイン時に管理コンソール経由でサーバ設定パラメータに対して行われた変更は、他のノードのserver.confファイルにプロパゲートされません。(QCCR1L45580)

回避策: 次の2つの回避策があります。

- クラスタ内の各ノードのサーバ設定パラメータを手動で変更するようにします。または
- server.confファイル用の共有フォルダを作成し、クラスタ内のすべてのノードに同じserver.confファイルへのアクセス権を与えます。

制限: グラフィックビューでサブワークフローを開くときに、次のエラーが発生する場合があります。java.io.IOException:too many colors for a GIF (QCCR1L48353)

回避策: 次の手順を実行します。

1. server.confで**com.kintana.core.server.LOW_COLOR_WF_IMAGE** パラメータを**true**に設定します。
2. <PPM_Home>/binディレクトリに移動し、次のコマンドを実行します。

```
sh ./kUpdateHtml.sh
```

3. PPMサーバを再起動します。

問題: (Windows以外のプラットフォーム) ルート以外のユーザがWindows以外のプラットフォーム上でPPMサーバを起動すると、いくつかの警告メッセージが表示される場合があります。(QCCR1L55730)

回避策: システムに対するインパクトはないため、これらの警告メッセージを無視するだけです。

プラットフォーム - UI

制限: (Google Chromeのみ) Chromeブラウザで単一のACLが複数のACLとして表示されます。(QCCR1L55548)

回避策: なし。

問題: (Internet Explorer 9のみ) IE 9のQuirksモードを使用してPPM Centerにアクセスすると、次の問題が発生する場合があります。

- 任意のテーブルフィールドに長いテキストが含まれている場合、テーブルコンポーネントのオートコンプリートアイコンが消えます。
- リクエストタイプに大量のフィールドがある場合、リクエストページの表示中にパフォーマンスの問題が発生します。

(QCCR1L55027)

回避策: なし。

制限: (Google Chromeのみ) Google Chromeを使用してPPM Centerにアクセスする場合、PPM Centerのページレイアウトが正しく表示されない場合があります (特にページ下部のボタンが切り詰められる可能性があります)。

回避策: PPM Centerページを正しく表示するには、次の手順を実行します。

1. Google Chromeで、ブラウザツールバーのChromeメニューをクリックします。
2. [設定]を選択し、[詳細設定を表示]をクリックします。
3. [ウェブコンテンツ] セクションに移動し、[フォント サイズ] フィールドの [フォントをカスタマイズ] ボタンをクリックします。
4. [最小フォント サイズ]を[最小]に変更します。
5. [OK]をクリックします。

Workbench

問題: PPM Workbenchから大きなワークフロー図をエクスポートしようとする、問題が発生する場合があります。

回避策: [開く] > [管理] > [Workbenchを開く] をクリックして、PPM Workbenchを開く場合、PPM Workbenchから大きなワークフロー図をエクスポートするために、Javaプラグインのヒープサイズを増やす必要があります。

削除するには

1. Windowsプラットフォームで、[スタート] > [コントロール パネル] > [Java プラグイン] をクリックします。
2. [Java コントロール パネル] ダイアログで、[Java] タブを選択し、[Java アプレットのランタイム設定] の下にある [表示] をクリックします。
3. 最新バージョンのJavaランタイム行を見つけ、[Java ランタイム パラメータ] フィールド内をダブルクリックし、「-Xmx<heap_size>m」を追加します。<heap_size> は使用しているシステムに合った数値にします。たとえば、-Xmx300mにすると、Javaの最大ヒープサイズは300 MBIに設定されます。
4. [OK] をクリックします。

注: すべてのWebブラウザウィンドウを終了してください。

制限: ユーザが [開く] > [管理] > [Workbenchを開く] をクリックして、64ビットのInternet ExplorerでPPM Workbenchを開くと、Javaプラグイン1.7.0をインストールするように求められます。画面の指示に従ってJava

プラグインをインストールしても、Javaプラグイン1.7.0をインストールするように求めるプロンプトが表示されません。

回避策: Oracleでは、32ビットのJavaプラグイン1.7.0に対してのみ自動インストールキットが用意されています。64ビットのJavaプラグイン1.7.0をインストールするには、OracleのWebサイトに移動し、64ビットのJavaプラグイン1.7.0を手動でダウンロードおよびインストールしてください。

HP Resource Management

問題: スタッフィングプロファイルページとアサインの負荷の分析ポートレットでのデータ表示書式の不整合: スタッフィングプロファイルページでは小数点以下1桁の書式で時間単位のデータが表示されますが、アサインの負荷の分析ポートレットでは小数点以下2桁の書式でデータが表示されます。

回避策: なし。

HP Time Management

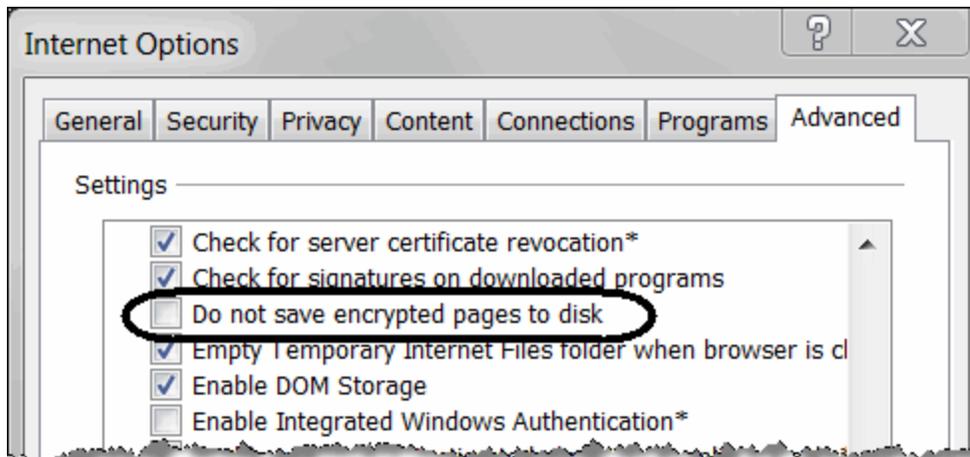
問題: (Internet Explorer 9のみ) PPM Centerをバージョン9.14.0002にアップグレード後に、タイムシートをHTTPS経由でExcelにエクスポートすると、「ブロックしています」というメッセージが表示されます。(QCCR1L50117)

回避策: 次の2つの回避策があります。

注: 回避策1が組織のITポリシーで許可されない場合にのみ、回避策2を試行してください。

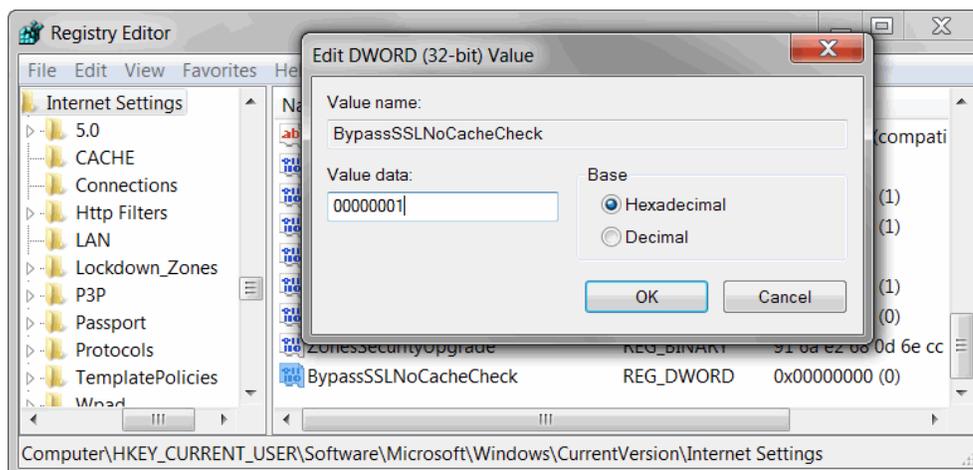
回避策1: Internet Explorerの詳細設定の[暗号化されたページをディスクに保存しない]オプションをオフにします。

これを行うには、Internet Explorer 9の[ツール]メニューで、[インターネット オプション]、[詳細設定]の順にクリックし、[セキュリティ]領域の[暗号化されたページをディスクに保存しない]チェックボックスをオフにして、[OK]をクリックします。(これはInternet Explorerのデフォルトの設定です)



回避策 2: レジストリキーを編集します。削除するには

1. レジストリエディタを起動します。
2. 必要なレジストリキーを見つけます。
 - ユーザごとの設定では、次のレジストリキーを見つけます。
HKEY_CURRENT_USER\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings
 - コンピュータごとの設定では、次のレジストリキーを見つけます。
HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Windows\CurrentVersion\Internet Settings
3. [編集]メニューバーで、[新規] > [DWORD (32 ビット) 値]をクリックし、次の値の名前を追加します。BypassSSLNoCacheCheck.
4. [BypassSSLNoCacheCheck]を右クリックし、[変更]をクリックします。
5. [値のデータ]フィールドに「00000001」と入力し、[OK]をクリックします。



6. レジストリエディタを終了します。

問題: [タイムシートの承認] ポートレットから作成されたスプレッドシートを使用して、タイムシートを開こうとしたときに、次のセッションエラーが発生する場合があります。

Your session has timed out due to inactivity. Any unsaved changes have been lost. Please reload the Time Sheet to continue with your changes.

(QCCR1L45610)

回避策: この問題を修正するには、Microsoftから提供される次の回避策を使用してください。<http://support.microsoft.com/kb/218153>

PPM Workbench

問題: JRE7u25をインストール後にPPM Workbenchが開かなくなります。この原因は、最新のJavaプラグインを使用するOracleによって行われたJavaアプレットの変更によるものです。詳細については、<http://www.oracle.com/technetwork/java/javase/7u25-relnotes-1955741.html>を参照してください。(QCCR1L52313)

回避策1: JRE7u25をアンインストールし、JRE7u11を再インストールして使用します。

最新のJavaプラグインによってPPM Workbenchでこの問題が発生するため、JRE7u11を使用することをお勧めします。

回避策2: Clear Javaキャッシュ設定をクリアし、証明書の失効確認を無効にします。削除するには

1. [スタート] > [コントロールパネル] > [Java] に移動します。
[Java コントロールパネル] ウィンドウが開きます。
2. Javaキャッシュ設定をクリアします。
 - a. [一般] タブで、[インターネット一時ファイル] セクションの [設定] をクリックします。[一時ファイルの設定] ダイアログが開きます。
 - b. [ファイルの削除] をクリックします。[ファイルおよびアプリケーションの削除] ダイアログが開きます。
 - c. [キャッシュされたアプリケーションおよびアプレット] を選択し、[OK] をクリックします。
3. 証明書の失効チェックを無効にします。
 - a. [Java コントロールパネル] ウィンドウの [詳細] タブに移動します。
 - b. [セキュリティ] > [一般] の順に展開し、[証明書失効リスト(CRL)を使用して証明書の失効状態をチェックする] オプションをオフにして、[OK] をクリックします。
4. PPM Workbenchを再度開きます。

注意: オンライン失効チェックの無効化は、セキュリティ保護が脆弱になるため、管理された環境でのみ考慮する必要があります。

アップグレード

制限: PPM Centerをバージョン9.30にアップグレードすると、TM_USERS_BILLING_APPROVERSテーブルとTM_USERS_TIME_APPROVERSテーブルに2つの列が追加される結果、両方のテーブルとそのインデックスで使用されるデータベース領域が2倍になることがあります。つまり、組織に多数のタイムシートと請求書の承認者がいる場合、テーブルスペースが不十分になる可能性があります。(QCCR1L55661)

回避策: アップグレードの前にテーブルスペースを確認し、必要に応じてデータテーブルスペースとインデックステーブルスペースを拡張してください。

ドキュメントの正誤表

次のドキュメントの項目は間違っています。

Installation and Administration Guide

kBudgetBenefitImport.shスクリプトの説明の間違い

場所: Installation and Administration Guide、バージョン9.20、第3版、500ページ目

誤: kBudgetBenefitImport.shスクリプトの説明が間違っていました。

正: 正しい説明は次のとおりです。

kBudgetBenefitImport.shスクリプトは、孤立した予算/ベネフィットとcsvファイルとのエクスポート/インポートに使用されます。

スクリプトを次のように実行します。

```
kBudgetBenefitImport.sh  
[-h | -help | -?]  
[-export <csvファイル名>.csv <ログファイル名>.log]  
[-import <csvファイル名>.csv <ログファイル名>.log]  
[commit]
```

各項目の意味は次のとおりです。

<csvファイル名>.csvは、孤立した予算/ベネフィットを格納するcsvファイルを表します。

<ログファイル名>.logは、ログファイルを表します。

commitはデータベースに対する変更をコミットします。指定しない場合、.logファイルのみが作成されず。

注: このスクリプトは、9.30で廃止され、削除されます。

HP Project Managementユーザーガイド

「ページ読み込み時に適用」ルールイベンに関する情報の不足

場所: HP Project Managementユーザーズガイド、バージョン9.20、194ページ目

誤: 「ページ読み込み時に適用」ルールイベンに関する情報が不十分です。

正: 「ページ読み込み時に適用」ルールイベンの説明で、次のような注が追加されています。

注: このイベントに定義されているルールは、先取りページではトリガされません。

セキュリティモデルのガイドとリファレンス

本ガイドでのユーザのコピーと無効化に関する情報の不足

場所: HPセキュリティモデルのガイドとリファレンス、バージョン9.20

誤: 本ガイドには、ユーザのコピーとユーザの無効化に関する説明がありません。

正: 本ガイドに「ユーザのコピー」と「ユーザの無効化」の2つの項が追加されています。

詳細については、バージョン9.30の『セキュリティモデルのガイドとリファレンス』を参照してください。

ユーザを無効にするための2つの方法での動作の矛盾が未記載

場所: HPセキュリティモデルのガイドとリファレンス、バージョン9.20

誤: 本ガイドには、[無効化] ボタンを使用してユーザを無効にする方法と[終了日] フィールドを使用してユーザを無効にする方法での動作の矛盾が記載されていません。

正: 本ガイドに次の注が追加されています。

注: [終了日] フィールドの値が現在の日付以前である場合、ユーザの作成時にユーザが無効になりません。

この方法でユーザを無効にすると、「製品」の基準 (システムレベルライセンスとシステムレベルライセンス) でユーザを検索後に検索結果にそのユーザがリストされません。それは、ライセンスの計算時に、終了日が過去のユーザをPPM Centerが無視するためです。ただし、[無効化] ボタンを使用してユーザを無効にした場合、「製品」の検索条件の設定方法に無関係にユーザが結果にリストされます。

リリースノート

[リクエストの作成が確認されました] ページのスキップに関する情報の不足

場所: リリースノート、バージョン9.22

誤: [リクエストの作成が確認されました] ページのスキップ後に、[リクエスト詳細] ページに間違っただリクエストステータスが表示されることに関する情報の不足

正: 次のような注が追加されています。

注: 最初のステップとして実行ワークフローステップが設定されている場合、[リクエスト詳細] ページに誘導されても、ステップの実行が終了しない場合があります。これは、PPM Workbenchの[実行] ウィンドウで [ユーザにリクエスト ページが表示される前に、実行を終了] オプションを選択しても同じことです。この場

合、ステップの実行終了後に[リクエスト詳細]ページをリフレッシュし、PPM Centerで正しいリクエストステータスが表示されるようにして、リクエストをさらに変更可能にする必要があります。

HP Demand Management設定ガイド

[複数選択が可能] オプションの設定に関する情報の不足

場所: HP Demand Management設定ガイド、バージョン9.20

誤: リクエストタイプフィールドの作成時の**[複数選択が可能]**オプションの設定に関する説明。

正: 次のような内容が**[複数選択が可能]**オプションの説明に追加されています。

検証用にACL以外のコンポーネントを選択した場合、**[複数選択が可能]**オプションを有効にしたかどうか、その値がYesかどうかに関係なく、ユーザは複数の値を選択できません。これはWebサービスにも適用されます。

Operational Reporting Administrator's Guide

Operational Reporting Content Pack 2.0へのアップグレード準備に関する手順の違い

場所: Operational Reporting Administrator's Guide for Content Pack 2.0、39ページ目

誤: Content Pack 2.0へのアップグレード準備に関する手順のステップ3が間違っています。

正: ステップ3を次で置き換えます。

Operational Reporting for PPM Center Content Pack 2.0アップグレードバンドルのコンテンツを自身のディレクトリ(以降 <Op_Reports_Home> ディレクトリと呼ぶ)に抽出します。

ドキュメントのフィードバックを送信

本ドキュメントについてのご意見、ご感想については、電子メールでドキュメント制作チームまでご連絡ください。このシステムで電子メールクライアントが設定されていれば、このリンクをクリックすることで、以下の情報が件名に記入された電子メールウィンドウが開きます。

Feedback on Release Notes (Project and Portfolio Management Center 9.30)

本文にご意見、ご感想を記入の上、[送信]をクリックしてください。

電子メールクライアントが利用できない場合は、上記の情報をコピーしてWebメールクライアントの新規メッセージに貼り付け、HPSW-BTO-PPM-SHIE@hp.com宛にお送りください。

お客様からのご意見、ご感想をお待ちしています。